



# 人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和5年7月10日

No.4



## 人権学習を通して 考えたこと

### 2年生



人権学習で、偏見や差別、いじめなどの勉強をしてきた。けれど、1年前の人権学習より考えが深まったなと思った。今、色々な人の意見が尊重されるべきという多様性の社会の中で、自分だけの強く偏った意見だけをつらぬくのは違って、様々な人が色々な考えを持って口に出して言える方がいいなと思った。インターネットなどで、いじめとか偏見とか増えてばかりだけど、全ての人が人権を理解できるようになればいいなと思う。

これまでの人権学習を通して、人の心を感じる気持ち、これからのクラスの在り方について考えることができました。また、自分自身が人を傷つけるようなことをしないためにどうすれば良いか、日々考え行動できるようにになりたいと思いました。そして今後これを心に留めておいて、より良いクラスになるようにしたいと思いました。

2年生は資料を使って「決めつけ」や「思い込み」が、偏見や差別へと発展することを理解し、決めつけや思い込みによって人を判断するのではなく、その「ひと」を理解し、認め合おうという学習を進めました。

今回は2年生の学習と考えたことを紹介します。(文章は一部編集しています)

人権学習をしてきて、共通して言えることは「相手の気持ちを考える」と言うことだと思いました。人の気持ちを考えることで、相手が嫌な思いをすることが減ると思うからです。一人ひとりが相手のことを考えることができれば、いじめや差別などは減っていくだろうと思いました。

いじめは一言で知らないうちに相手を傷つけてしまうかもしれないので、自分事としてこれからも人権について考えていきたいと思いました。

これまで「いじめの原因はなんだろう。どうしていじめが起きてしまうんだろう。」と疑問に思ってたけど、今回の人権学習を通して「決めつけや思い込みから偏見になって、偏見がどんどんエスカレートして行動化してしまうといじめや差別になる」ということが分かりました。さらに、道徳「君、想像したことある？」では、自分も知らないうちに相手に嫌な思いをさせてしまっているかもしれないと思ったので、他人事のように考えず、気をつけていきたいと思いました。

偏見や差別を生まない力を磨こう！



固定観念や偏見の定義について学び、私はこれまでの生活を振り返ると思い当たることがあったので、気をつけていこうと思いました。いじめについては何度も学習しているけど「いじめる人」についてはあまり考えたことがありませんでした。なぜいじめるのか、なぜいじめを見て何もしないのかということを考えてみると、心の弱さというものがあるのではないかと思います。いじめる人は相手のことを考えることができないからいじめてしまうし、見ている人は自分もいじめられてしまうかもしれないと思うからいじめを仲裁することができない。これが続くことでいじめは終わりを見せることはないのではないかと思います。

クラスで決めた人権宣言はいじめや差別を生み出さないようにするためのものだから、全員がそれに向かって生活していく必要があると思いました。

偏見・差別などで人をいじている人は、きっとそれでいじめられたことがないからどれだけ傷つくかわかっていないんだと思う。そういう人たちにわかてもらうには、周りが注意できる環境を作ることが必要だと思う。そのために、学級人権宣言はとてもいいと思う。

偏見は良くないということが学べた。人を見た目で判断せず、中身を知るべきだと思った。そのためには、一人ひとりの個性を認め、尊重することが大切だと思った。みんなそれぞれ個性があるし外見も人それぞれなので、お互いに理解し合うと良いと思った。また、発する言葉や口調も考えなければならないと思った。自分にとっては何ともなくても、相手を不安や嫌な気持ちにさせるかもしれないので気を付けたい。

私はこの学習を通して、偏見や差別などは絶対にしてはいけないと思った。偏見・差別・いじめをしている側は、いじめられている人の気持ちを何も考えないでやっているけれど、その一方で受けている人はとても悲しく辛い思いをしていることが分かった。それらによって追い詰められているのはとてもひどいことだし、自分もそんなことされたくないと思った。いじている方にも、もしかしたらわけがあるのかもしれないけれど、どんな理由があってもいじめや差別、偏見はいけないと思った。そういったことをこれからなくしていくために、まずはたくさんの人のことを深く知るべきだと考えた。人のことを知れば、自分との共通点や異なる点なども見つけられて、たくさん話したり仲良くなったりできると思う。よく“十人十色”と言うけれど、一人ひとり違う個性があるのだから、それをお互いに認めるべきだと思った。

偏見は、相手を決めつけることで嫌な思いをさせることがある。でも、相手を知ることで偏見につながらないことが分かった。だから、相手をよく知ることが大切だと思う。一人ひとりの個性を認め、尊重し、個性を伸ばせるクラスに向けて考えていきたい。

誰でも少しの偏見は持っていると思います。でも、偏見は決めつけに変わっていくので、その人と関わって良い所をたくさん見つけて偏見による差別などをなくしていこうと思いました。

また、女の子はピンク、男の子は青などのイメージで好きなものを言えなかったり、好きなことができなかつたりすることがあると思います。そういったイメージをどんどん変えていきたいと思いました。